

参考資料 2 第 2 回班会議議事次第

令和元年度厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

第 2 回班会議

日 時：2019 年 12 月 10 日（火曜日）10:00～12:00

場 所：東京慈恵会医科大学

2 号館 14 階 1403 会議室

東京都港区西新橋 3-25-8

議事次第予定

1. ご挨拶

伊藤 靖典 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐
小川 靖 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
戦略研究部 難病研究課

2. 免疫アレルギー分野における AI 活用の可能性について：玉利 [参考資料 1]
3. 各アクションプランについての研究体制の構築：評価方法について
玉利、足立 [参考資料 2]
4. NDB データ（日本の保険診療の悉皆データ）をアレルギー領域でいかに活用するか。NDB データ活用について中間報告：貝沼 [参考資料 3]
5. 免疫アレルギー研究 10 ヶ年戦略関連の論文：足立 [参考資料 4]
6. 若手研究者による Task Force について：足立 [参考資料 5]
7. 総合討論

資料： 議事次第

研究班名簿

参考資料 1	免疫アレルギー分野における AI 活用の可能性
参考資料 2	各アクションプランについての研究体制の構築
参考資料 3	NDB のデータ活用の評価項目
参考資料 4	免疫アレルギー研究 10 ヶ年戦略関連の論文
参考資料 5	若手研究者による Task Force について

令和元年度厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

2019.12.10 班会議 出席者名簿 (五十音順)

玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設 (分子遺伝学) 教授
松本 健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 部長
藤枝 重治	福井大学 医学部感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授
浅野 浩一郎	東海大学医学部 内科学系呼吸器内科学 教授
足立 剛也	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー The International Human Frontier Science Program Organization (HFSPPO), Scientific Officer
猪俣 武範	順天堂大学医学部眼科学教室 助教
貝沼 圭吾	国立病院機構 三重病院 成育診療科 医長
佐藤 さくら	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 病態総合研究部 病因病態研究室 室長
正木 克宜	慶應義塾大学医学部呼吸器内科 助教
森田 英明	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長
オブザーバー	
小川 靖	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 戦略研究部 難病研究課
伊藤 靖典	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐

令和元年度 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」研究班名簿

研究代表者

玉利 真由美 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
基盤研究施設（分子遺伝学）教授

研究分担者

天谷 雅行 慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授

海老澤 元宏 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター
副臨床研究センター長

藤枝 重治 福井大学 医学部感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科
教授

松本 健治 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 部長

研究協力者

浅野 浩一郎 東海大学医学部 内科学系呼吸器内科学 教授

足立 剛也 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）
戦略研究部 難病研究課 AMED プログラムオフィサー
The International Human Frontier Science Program Organization
(HFSP), Scientific Officer

猪俣 武範 順天堂大学医学部眼科学教室 助教

野田 龍也 奈良県立医科大学 公衆衛生学 講師

黒川 友哉 千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学
医薬品医療機器総合機構（PMDA） 専門委員

貝沼 圭吾 国立病院機構 三重病院 成育診療科 医長

神尾 敬子 九州大学病院 光学医療診療部 医員

倉島 洋介 千葉大学大学院医学研究院 イノベーション治療学研究講座
イノベーション医学研究領域 准教授
東京大学医科学研究所 特任准教授

坂下 雅文 福井大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師

佐藤 さくら 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
病態総合研究部 病因病態研究室 室長

森田 英明 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 アレルギー研究室 室長

中島 沙恵子 京都大学大学院医学研究科皮膚科学 助教

二村 昌樹 国立病院機構 名古屋医療センター 小児科 医長

福島 敦樹 国立大学法人高知大学医学部眼科学講座 教授

正木 克宜 慶應義塾大学医学部呼吸器内科 助教

報告事項

免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築

1) 全国拠点病院連絡会議にて免疫アレルギー疾患研究 10 か年戦略についての講演、パンフレット配布

令和元年度 アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議

参加者)・各自治体の行政の方(都道府県職員)・拠点病院の医師

2019.12.15 パシフィコ横浜会議センター 501・502

10 か年戦略について 5分 プレゼンテーション

パンフレットを参加者に配布

2) 免疫アレルギー疾患研究 10 か年戦略には AI の活用の可能性について

2019.10.2 研究分担者 天谷先生とのミーティング

現在の免疫アレルギー疾患研究 10 か年戦略には AI の活用について触れられていない。今後の医療において AI の活用は非常に重要であり、その可能性についての情報収集は行った方が良い、との指摘があった。

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) AI ホスピタルによる高度診断・治療システム PD 中村祐輔先生よりご意見をいただいた 2019.11.27

[参考資料 1]

3) 免疫アレルギー疾患研究 10 か年戦略工程及び評価方法 足立、玉利

・2018 年度の報告書の一環として班会議で話し合われたことをもとに

工程表(案)を作成した

・免疫アレルギー研究評価方法について

[参考資料 2]

参考資料 1

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

AI ホスピタルによる高度診断・治療システム PD

中村祐輔先生 AI の活用について 2019. 11. 27

T 細胞レパトアの免疫アレルギー疾患における解析

クローン病や Stevens Johnson 症候群など急激な変化により T 細胞が clonal な増殖をきたすような疾患は、CD4+、CD8+に分画してから T 細胞レパトアを解析する。スティーブンスジョンソン症候群などは、症状がピーク的时候はモノクローナルに増殖した T 細胞が増殖している。血液の T 細胞と皮膚病変の T 細胞のレパトアを解析すればどういふ T 細胞受容体を持ったものが何を攻撃しているかの解明につながる可能性がある。川崎病などでは有症状期と無症状期を比較して、寛解する人では clonal に増殖していたリンパ球が著明に減少している。ピーナツアレルギーなど脱感作した場合どのくらい変わるか、慢性炎症の病勢での変化など T 細胞のレパトアを解析できる。

T 細胞受容体、B 細胞受容体に関しては、日本人のターゲットシーケンスのクプライマーが設計され、1 人、2-3 万円で情報が得られる。ゲノム DNA でもシーケンスは可能だが、リンパ球の mRNA をとり cDNA で解析した方が、コピー数も多く、clonal な増殖がわかる。1 × 10⁶ 細胞あれば解析ができる、血液 10ml あれば解析は可能。きちんとした臨床データがあるときれいに層別化ができる内閣府の AI プロジェクトの協力機関に CPM 社がある。AI 解析はそこで可能外注で解析も可能、また、がん研の研究所の清谷先生との共同研究も可能。

日本人は T 細胞レセプターのクラス I、A24homo が 24 パーセントいる。

細胞性免疫を介した疾患でこれらが関与している可能性もある。

AMED の予防法を研究するグラントで、致死的疾患の原因因子と予防法の同定などのタイトルで資金を得ることが望ましい。

積水ハウスは環境要因について、家にセンサーを置いてヘルスケアに役立てることに興味を持っている。

多因子遺伝のポリジェニックスコアに関しては、環境因子の影響が強く、DeNA や Google などの会社が行うことが現実的であろう。

参考資料 2-1 各アクションプランについての研究体制の構築

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略工程表（案）



戦略1: 本態解明

(青字は現在進行中)

(1) 免疫アレルギー疾患の多様性の理解と層別化に資する基盤研究

- 患者情報データベース標準化 ●遺伝学的・分子生物学的解析等を含む患者層別化研究推進
- AMED免疫アレルギー疾患等実用化研究事業(免アレ)、厚生労働科学研究補助金(厚労科研)
- AMED-CREST(エピゲノム、適応・修復)、環境再生保全機構(環境保健調査研究)
- に関連プロジェクトあり

既存のAMED免アレ開発研究の推進等

(2) 予防的・先制的医療の実用化を目指す研究開発 対策が要検討

- (1)や(3)の成果等に基づく、予防的・先制的医療の開発

(3) 免疫アレルギー疾患における宿主因子と外的因子の関係に着目した基盤研究

- マイクロバイオーム・真菌等が関係する発症メカニズム
- AMED免アレ、AMED-CREST(微生物叢)に関連プロジェクトあり

(4) 臓器連関/異分野融合に関する免疫アレルギー研究開発

- 学会等調査 ●異分野融合を推進する研究基金等の活用(AMED-CRESTで推進されている)
- AMED免アレ、AMED-CREST(微生物叢)に関連プロジェクトあり

戦略2: 社会の構築

(1) 患者・市民参画による双方向性の免疫アレルギー研究の推進に関する研究

- 患者市民の参画に向けた必要事項の検討 ●双方向性の研究推進
- 厚労科研に関連プロジェクトあり

(2) アンメットメディカルニーズ等の調査

- 疾患活動性や生活満足度等指標作成 ●ニーズ把握ツール作成 ●指標を用いた効果判定
- 厚労科研やAMEDに関連プロジェクトあり

(3) 免疫アレルギー研究に係る臨床研究基盤構築に関する開発研究 対策が要検討

- 拠点病院等連携+中央倫理審査制の導入 ●研究推進のための環境整備

(4) 免疫アレルギー研究における国際連携、人材育成に関する基盤構築研究

- 基盤調査 ●国内外留学・連携推進 ●国際交流推進(WAO2020にてシンポジウム開催)
- 厚労科研、環境保健調査研究に関連プロジェクトあり

戦略3: 疾患特性

(1) 母子関連を含めた小児および移行期の免疫アレルギー疾患研究

- AMED免アレ、AMED-CREST(機能低下[全ライフコースを対象])、環境保健調査研究
- に関連プロジェクトあり

(2) 高齢者を含めた成人発症免疫アレルギー疾患研究

- AMED免アレ、AMED-CREST(機能低下[全ライフコースを対象])に関連プロジェクトあり

(3) 重症・難治性・治療抵抗性の免疫アレルギー疾患研究

- AMED免アレに関連プロジェクトあり

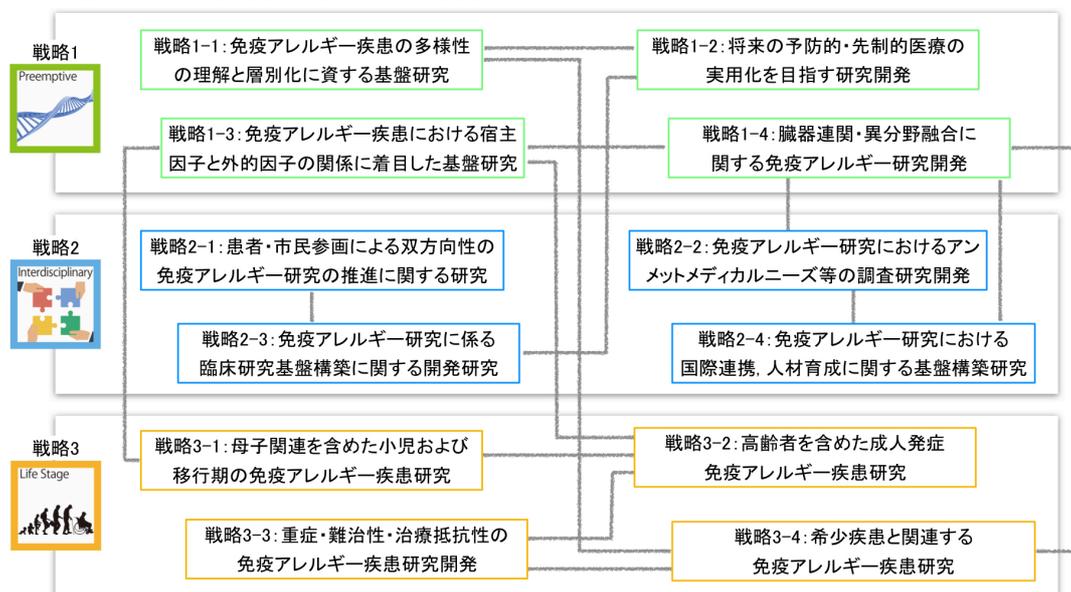
(4) 希少疾患と関連する免疫アレルギー疾患研究 対策が要検討

- IRUD-Beyond等難治性疾患研究等との連携も一案

今回策定された免疫アレルギー疾患研究戦略10か年戦略は、参考資料にあるように、これまで厚生労働省を含む省庁やAMED等で行われてきた研究課題と大きく逸脱するものではなく、適切な課題設定がなされてきたと言える。一方で、10か年戦略の策定により、新たな取り組みやさらなる連携が必要な戦略が明らかとなった。各戦略がその特性に応じて、今後も政策研究、実用化研究の枠組みの中で適切に実行されていくことが重要である。

参考資料 2-2 (続き) 各アクションプランについての研究体制の構築

図4 免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の各論と関連性



研究 10 か年戦略の見直しが 2024 年度に予定されている
研究戦略の評価に資する情報を収集する必要がある

案) 免疫アレルギー分野について下記の情報を収集する

- 1) 国際雑誌 論文掲載数
- 2) 新規の薬機承認
- 3) 特許情報、ソフトウェア情報

参考資料 2-3 (続き) 各アクションプランについての研究体制の構築

1) 国際雑誌 論文掲載数

PubMed を 2015/01/01～2019/12/02 で検索集計した

Advanced Search Builder を使用

Builder を Journal にして名称を入力

例

Allergy の場合、

((("Allergy"[Journal])) AND Japan[Affiliation])) AND ("2015/01/01"[Date - Publication] : "2019/12/02"[Date - Publication]) と入力

結果

アレルギー領域

Journal of Allergy and Clinical Immunology (JACI) 計 183 論文

Allergy 計 103 論文

Allergology International 計 502 論文

免疫学領域

Nature Immunology 計 72 論文

Immunity 計 90 論文

Science Immunology 計 13 論文

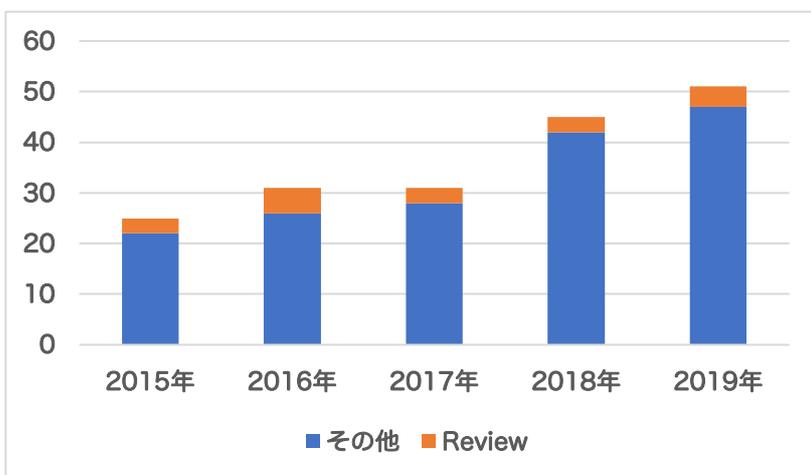
松本健治先生と年度内に最新情報で照合する予定

参考資料 2-4

アレルギー分野 論文数

The Journal of allergy and clinical immunology 計 183 論文

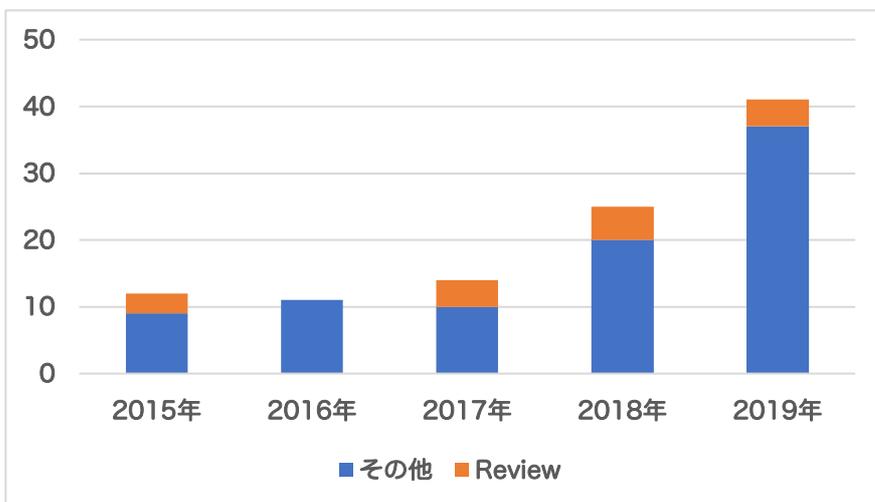
	2015	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	3	5	3	3	4
その他	22	26	28	42	47
合計	25	31	31	45	51



Allergy 計 103 論文

	2015	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	3	0	4	5	4
その他	9	11	10	20	37
合計	12	11	14	25	41

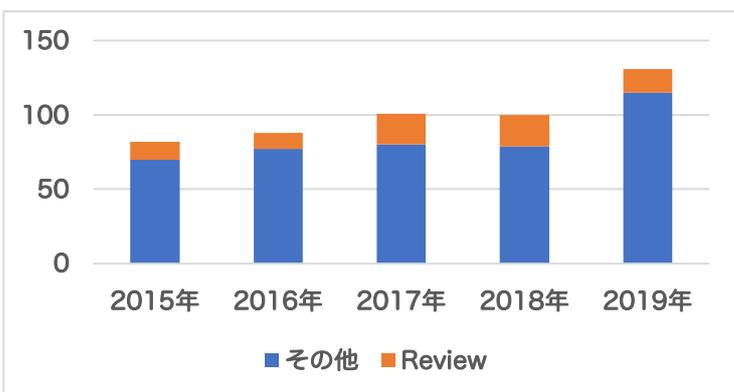
参考資料 2-35



参考資料 2-5

Allergology International 計 502 論文

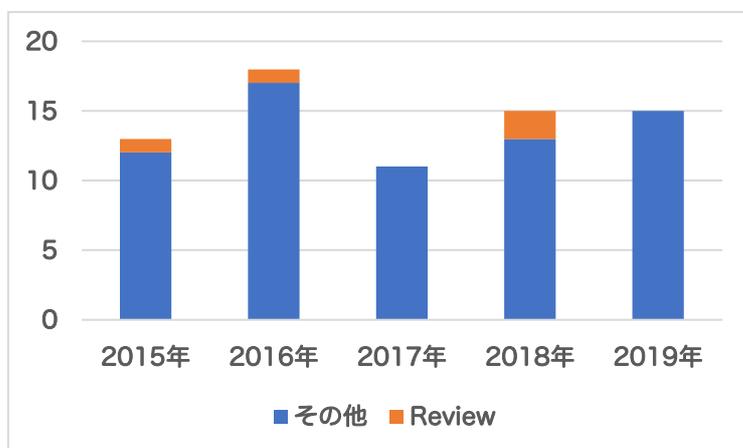
	2015	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	12	11	21	21	16
その他	70	77	80	79	115
合計	82	88	101	100	131



免疫学分野 論文数

Nature Immunology 計 72 論文

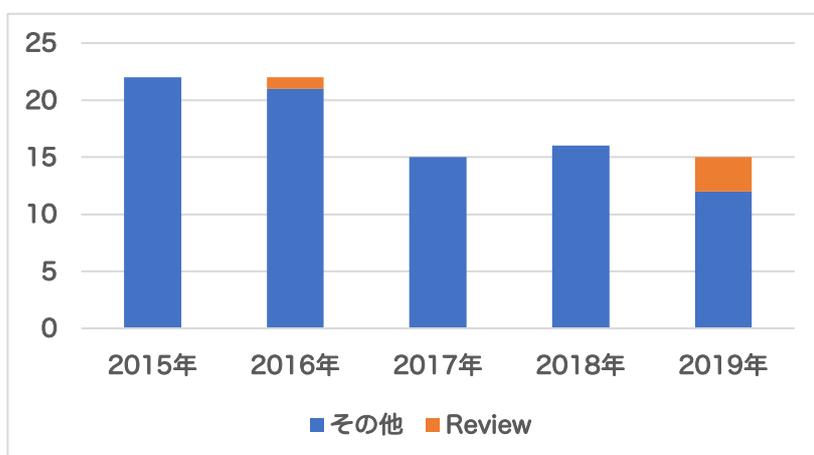
	2015	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	1	1	0	2	0
その他	12	17	11	13	15
合計	13	18	11	15	15



参考資料 2-6

Immunity 計 90 論文

	2015	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	0	1	0	0	3
その他	22	21	15	16	12
合計	22	22	15	16	15



Science Immunology 計 13 論文

	2016	2017	2018	2019(12/2 まで)
Review	0	0	0	0
その他	1	5	2	5
合計	1	5	2	5



参考資料 2-7

2) 医薬品医療機器承認について

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 PMDA ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/index.html> に承認情報が公開されている

新医薬品の承認品目一覧

年度ごと、月ごとの承認品目は入手可能

「新医薬品」とは、医療用に用いる、新有効成分含有医薬品、新医療用配合剤、新投与経路医薬品、新効能医薬品、新剤型医薬品、新用量医薬品

例) 令和元年度 承認品目 6月分

第6分野の1

呼吸器官用薬、アレルギー用薬（内服のみ）、感覚器官用薬（炎症性疾患）

分野	承認日	No.	販売名 (会社名、法人番号)	承認	成分名 (下線:新有効成分)	備考
第6の1	R1.6.18	13	ビレーストリエアロスフィア56吸入 同 エアロスフィア120吸入 (アストラゼネカ㈱、9120001073652)	承認	フテソニド/グリコピロニウム臭化物/ホルモテロールフマル酸塩水和物	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合）を効能・効果とする新有効成分含有医薬品及び新医療用配合剤
第6の1	R1.6.18	14	ビベスピエアロスフィア28吸入 同 エアロスフィア120吸入 (アストラゼネカ㈱、9120001073652)	承認	グリコピロニウム臭化物/ホルモテロールフマル酸塩水和物	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解（長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合）を効能・効果とする新有効成分含有医薬品及び新医療用配合剤

→2019年度末までにまとめる予定

3) 特許情報、ソフトウェア情報

知財情報については下記の方法があるとのこと

A) AMED 免疫アレルギー事業の特許出願状況調査

AMED 知財部に依頼し、公開されているものは整理、公開が可能

B) 日本及び世界の免疫アレルギー領域の特許出願状況

特許庁が詳細な分析を行い、日本のとるべき方針案を示してくれる

公募により課題を募集

AMED 小川先生が応募（9/17 締め切り）→結果は未着

ソフトウェア情報

中村 正裕先生 東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻個別化保健医療講座

情報検索が可能か検討予定

参考資料 3-1

疫学調査の新しい取り組み NDB データベース 貝沼

- ・NDB (National Database) レセプト情報・特定健診等情報データベース
慈恵大学と三菱総研の委託研究契約 進行中
- 10月中旬まで データを切り出すための疾患定義作成
- 12月頃 データの切り出しと粗集計
- 2月頃 解析
- 3月頃 報告書作成

NDBを用いたアレルギー疾患の医療実態把握

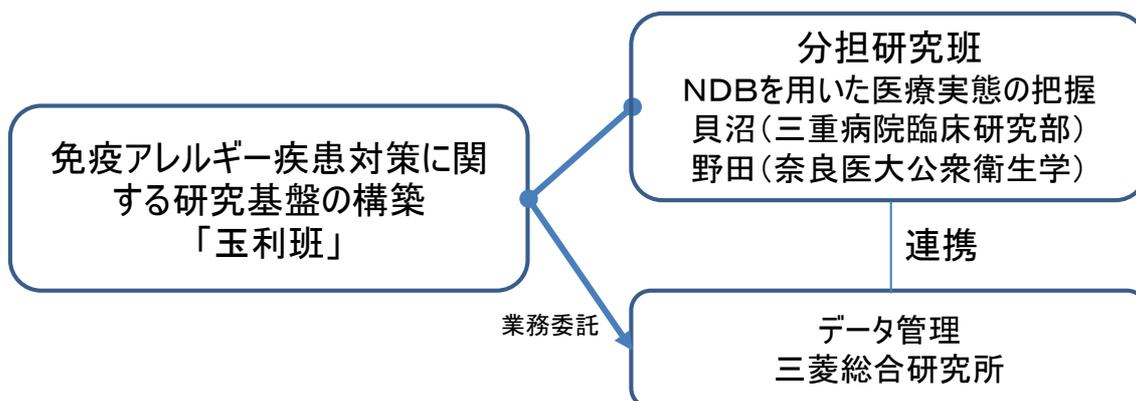
○追加交付が認められた背景

●2021年度に予定されているアレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針の見直しに向けた協議会で用いる資料として、行政的に緊急性がある課題である

○研究の位置づけ

●レセプトデータに基づく、診療状況の現状把握を行うことで、医療の標準化や、今後の政策研究、実用化研究の方針を策定する上での、基礎資料とする

○体制図



○取り組むべき事柄（2017年度のNDB）

1) 我が国初のNDBによるアレルギー疾患の罹患数実態調査

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、結膜炎、花粉症、アナフィラキシー等の現状把握を行うために必要な疾患定義を検討し、確立したのちに、NDBからの抽出を行う。抽出データから、年齢別や地域別の罹患者数を解析

2) アレルギー診療に関する医薬品の実態調査

近年、新たに保険適用となった重症アレルギー患者に対する生物学的製剤や花粉症等に対する舌下錠の免疫療法等の今後の市場拡大に際しての初期の全例別や地域別の現状を解析する。

⇒ 医療経済学的観点からの使用実態を明らかにし、診療ガイドラインに資する調査

3) アレルギー診療に関する検査の実態調査

基本法に基づく、医療提供体制の整備において、治療や検査の地域格差が指摘。特に、食物負荷試験や皮内テスト、呼吸機能検査等はアレルギー診療に不可欠。

⇒ これらの検査に関する地域格差等を解析し、診療の標準化に資する調査

<アナフィラキシー>

●評価項目

- エピペン処方の実態（年齢別・医療機関別・都道府県別）
- エピペン処方に関する診療の質評価
 - ☆エピペン処方前に特異的IgE抗体や皮膚テストの実施状況
 - ☆エピペン処方前に食物経口負荷試験の実施状況
 - ☆エピペン処方前に予定外受診の歴の有無
- 9歳以上におけるエピペン処方状況

●抽出項目

- ◎エピペン（医薬品コード）
- ◎病名（アナフィラキシー・食物アレルギー：病名コード）
- ◎特異的IgE抗体・皮膚テスト（診療行為コード）
- ◎小児食物アレルギー負荷試験（診療行為コード）

参考資料 3-3

<気管支喘息>

●評価項目

- 気管支喘息における診療の質評価
 - ☆喘息治療管理料2算定状況（peak flowを用いた管理実施）
 - ☆肺機能検査実施状況
 - ☆気管支喘息成人患者における禁煙治療状況
- 診療実態評価
 - ☆生物学的製剤の使用状況
 - ☆ダニ舌下免疫療法の使用状況
 - ☆気管支熱形成術の実施状況

●抽出項目

- ◎病名（病名コード）
- ◎ダニ舌下剤、ゾレア、禁煙補助薬（医薬品コード）
- ◎肺機能検査、喘息治療管理料、気管支熱形成術（診療行為コード）

<アレルギー性鼻炎>

●評価項目

- 診療実態評価
 - ☆舌下及び経皮免疫療法の実施状況

●抽出項目

- ◎病名（病名コード）
- ◎ダニ・スギ等の免疫療法治療薬（医薬品コード）

疾患定義について

◎NDBを用いた患者数把握

- 病名コード
- 医薬品コード
- 診療行為コード



これらのコードを組み合わせ、レセプト情報から、もっとも実情を反映していると思われる定義を作る

◎リウマチNDBの例

◎気管支喘息の定義

○ 病名

アスピリン喘息
アトピー性喘息
運動誘発性喘息
感染型気管支喘息
外因性喘息
気管支喘息
気管支喘息合併妊娠
気管支喘息重積発作
気管支喘息発作
混合型喘息
小児喘息
小児喘息性気管支炎
職業喘息
心因性喘息
心臓喘息
ステロイド依存性喘息
咳喘息
喘息性気管支炎
難治性喘息
乳児喘息
アレルギー性気管支炎

○ 医薬品＋診療行為

- AH
- OLTRA
- ICS
- β刺激薬

- 肺機能検査
- 呼気ガス分析
- 呼吸抵抗測定

- 等

条件

- ・3か月以上処方
- ・年に一度は肺機能

◎アトピー性皮膚炎の定義

○ 病名	○ 医薬品＋診療行為	条件
アトピー性紅皮症 アトピー性湿疹 アトピー性神経皮膚炎 アトピー性皮膚炎 アトピー皮膚 小児アトピー性湿疹 小児アトピー性皮膚炎 成人アトピー性皮膚炎	○AH ○保湿剤 ○外用ステロイド ○外用タクロリムス ●TARC ●皮膚科特定疾患 指導管理料(16歳) 等	・3か月以上処方

◎食物アレルギーの定義

○ 病名	○ 医薬品＋診療行為	条件
牛乳アレルギー 口腔アレルギー症候群 小麦アレルギー 食物アレルギー そばアレルギー 卵アレルギー ピーナッツアレルギー 好酸球性胃腸炎 食物蛋白誘発胃腸炎	○AH ○OCS ●小児食物アレルギー 負荷試験 ●外来栄養食事指導 管理料 等	

◎アレルギー性鼻炎の定義

○ 病名	○ 医薬品+診療行為	条件
アレルギー性鼻炎 季節性アレルギー性鼻炎 通年性アレルギー性鼻炎	○AH ○点鼻ステロイド 等	・季節性は季節限定 ・季節問わず処方あり

◎アレルギー性結膜炎の定義

○ 病名	○ 医薬品+診療行為	条件
アトピー性角結膜炎 アレルギー性結膜炎 アレルギー性鼻結膜炎 季節性アレルギー性結膜炎 巨大乳頭結膜炎 通年性アレルギー性結膜炎 春季カタル	○AH ○点眼ステロイド ○点眼抗アレルギー 等	・季節性は季節限定 ・季節問わず処方あり

参考資料 4

免疫アレルギー疾患研究 10 ヶ年戦略に関連する論文について 足立

免疫アレルギー疾患研究 10 ヶ年戦略の総説

- ・日本アレルギー学会 学会誌「アレルギー」69 巻 1 号に掲載予定 2020.1 月
- ・英文雑誌である「Allergology International」に英語で Secondary Publication として投稿予定
- ・内容については JACI の News/Commentary に投稿を検討

免疫アレルギー疾患研究 10 ヶ年戦略に資するインパクト解析について (案)

- ・日本の過去の funding project (免疫アレルギー疾患実用化研究事業等)がどのようなインパクトを与えてきたか、論文の IF に限らない指標を用いて解析
- ・特に「厚み指標 (institutional h5-index)」を用いて、本分野の将来に向けてどのような傾向がみられるかを確認
- ・10 ヶ年戦略の 12 の戦略と比較検討した際に、推進がなされてきた戦略、十分には推進されてこなかった戦略を見える化し、将来の funding への寄与を目指す

参考資料 5-1

若手研究者による Task Force 会議

本研究戦略では”若手研究者の育成”及び”国際連携”を強力に推進することの必要性を示している。

国内の関連する学会の横の連携に加え、海外の学会等とも連携し、若手イベントの推進、若手研究者の情報収集等を目的とした Task force の結成を行う。

各学会にご推薦いただいたメンバー

- 日本アレルギー学会 足立剛也 (AMED)、森田英明 (国立成育医療センター)
- 日本小児アレルギー学会 佐藤さくら (相模原病院)、二村昌樹 (名古屋医療センター)
- 日本皮膚科学会 中島沙恵子 (京都大学)
- 日本耳鼻咽喉科学会 坂下雅文 (福井大学)
- 日本眼科学会 猪俣武範 (順天堂大学)、福島敦樹 (高知大学、日本眼科アレルギー学会理事長)
- 日本呼吸器学会 正木克宜 (慶應義塾大学)、神尾敬子 (九州大学)
- 日本免疫学会 倉島洋介 (千葉大学/東京大学医科学研究所)

目的：アレルギーの論文の記載の通り、若手研究者を中心としたタスクフォースの形成によって、研究の国際化・多様化・有機的連携に繋げる

体制：各学会より推薦いただいた上記の 11 名

方法：Zoom を使った Web MTG 及び Slack を使った円滑な相互情報共有を進める
WAO の若手イベント等を連携の場として活用する

連携：AMED が進める Sipa (Serendipity Initiative Promoting HFSP-mindset by AMED) を通じて、その他のコミュニティとの連携を進める

評価 (案)：国内外留学者数、国内外フェローシップ申請数、海外グラント申請数を追う

参考資料 5-2

2019.11.15 Web meeting

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略 次世代タスクフォース Web Meeting が開催され、下記の議題について討議した。

議題

- 各学会の次世代/国際連携/異分野融合推進に向けた取り組みについて
- 各学会の海外から日本への参画推進に向けた取り組みについて
 - 学会によって状況は異なり、分野の特性、フェーズなどによって、適切なアプローチは異なる可能性もある。まずはその状況把握が重要。
- 共同研究等の推進
 - 各メンバーがロールモデルとなって共同研究、共同論文執筆、共同グラント申請等を行っていくことが、さらに次の世代にとっても重要となるため、積極的にこのTFの枠組み活用して連携を推進していく
- 次世代タスクフォースの名称について

Sipha 進捗状況

Year	Date	Event	Participant	Objective	Target	# of Participants
2019	(20190412)	慶應反分野的サイエンス会	早野さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク	30
	20190611	Rinkai Hack	吉田さん, 渡辺さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク	30
	20190705	NCNP国際セミナー	足立	学際マインド->国際イベント	ポスドク, PI	30
	20190709	30th Anniversary Celebration	高校生100人程度	HFSPマインド->高校生	高校生	100
	20190716	慶應反分野的サイエンス会	早野さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク	30
	20190718	トビタテ! 留学JAPAN	足立	学際マインド->国際イベント	学部生, 院生, ポスドク	10
	20190903	RA協議会	鈴木さん, 松岡さん, 古川さん	HFSPマインド->URA	URA	
	20190917	阪大若手研究フォーラム	菊田さん, 早野さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク	120
	20190919	トビタテ! 留学JAPAN	足立	学際マインド->国際イベント	学部生, 院生, ポスドク	10
	20190920	JST未来研究トーク	北原さん, 足立	国際マインド->学際イベント	ポスドク, PI	30
	(20190924)	ASG関連イベント (順天)	早野さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク, PI	30
	20190925	京大100人論文 オフ会	鈴木さん, 松岡さん, 足立	国際マインド->学際イベント	学部生, 院生, ポスドク	30
	20190928	留学のすゝめ@癌学会	赤木さん, 足立	学際マインド->国際イベント	学部生, 院生, ポスドク	120
	20191018	研究大学コンソーシアムシンポジウム	小泉さん	HFSPマインド->URA	URA	200
	20191025	HFSPセミナー@横浜RIKEN	古川さん		学部生, 院生, ポスドク, PI	
	20191105	九州大学URAイベント	足立	HFSPマインド->URA		
	20191106	北大部局横断シンポジウム	足立	国際マインド->学際イベント	ポスドク, PI	
	20191205	留学のすゝめ@分子生物学会	赤木さん, 早野さん, 足立	学際マインド->国際イベント	学部生, 院生, ポスドク	
	20191209	HFSPセミナー@京大	鈴木さん, 松岡さん, 足立		学部生, 院生, ポスドク, PI	
20191211	HFSPセミナー@免疫学会	古川さん, 足立		学部生, 院生, ポスドク		
2020	20200219-21	AMED-CREST 脳質領域会議	古川, 足立		ポスドク, PI	
	3月頃	日本医学会連合Rising Starリトリート	足立	国際マインド->学際イベント	ポスドク, PI	
	20200903-5	日本動物学会 (米子)	吉田, 足立		学部生, 院生, ポスドク, PI	
	20200917-20	World Allergy Organization Future Leaders' Symposium		学際マインド->国際イベント		
	20201202-04	HFSPセミナー@分子生物学会		国際マインド->学際イベント		
2021	20210909-11	日本動物学会 (早稲田)	吉田, 足立			
	20210930-1002	HFSPセミナー@癌学会		国際マインド->学際イベント		

参考資料 5-3



【プログラム】 Program

13:00	開会挨拶 Opening address 九州大学 副理事 大戸茂弘 教授 Prof. Shigehiro Ohdo, Vice President Kyushu University
セッション1：国際研究につながる日本政府の国際共同研究事業の紹介 Session 1 : Introduction of Japanese Funding for International Joint Research	
13:10 (JAP)	「JSPS 国際交流事業について」 日本学術振興会 (JSPS)、研究協力第二課長 田保橋 良 氏 “On JSPS schemes for International Joint research” Mr. Ryo Tabohashi, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)
13:40 (JAP)	JSPS 二国間交流事業の採択事例 九州大学理学研究院 寺崎 亨 教授 Testimonial by JSPS Awardee for International Joint research Prof. Akira Terasaki, Faculty of Sciences Kyushu University
14:00 (JAP)	「JST 戦略的国際共同研究プログラム (SICORP) について」 JST 国際部事業実施グループ調査役 佐藤 正樹 氏 “JST Strategic International Collaborative Research Program (SICORP)” Mr. Masaki Satoh, Department of International Affairs, Japan Science and Technology Agency (JST)
14:30 (JAP)	「JST-JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)について」 九州大学国際交流推進室 稲村 次郎 特任教授 “JST-JICA Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development (SATREPS)” Specially Appointed Professor Jiro Inamura, Office for the Planning and Organization of International Affairs Kyushu University.
15:00～15:15	休憩 Coffee Break
セッション2：国際研究につながる海外の競争的研究資金の説明 Session 2 : International Funding for International Joint Research	
15:15 (ENG)	「Horizon Europe, ERC, Erasmus+について」 駐日欧州連合代表部 科学・イノベーション・デジタル・その他 EU 政策部部長 ゲディミナス・ラマナウスカス 一等参事官 “On Horizon Europe, ERC, and Erasmus+” Dr. Gediminas Ramanauskas First Counsellor, Head of Science, Innovation, Digital, and Other EU Policies Section Delegation of the European Union to Japan
15:45 (JAP/ENG)	EIG Concert Japan など欧州との共同公募の採択事例 九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 松本 広重 教授 Testimonial by EIG Concert Japan Awardee Prof. Hiroshige Matsumoto I ² CNER Kyushu University
16:00 (JAP/ENG)	「Human Frontier Science Program について」 AMED 国際事業部主幹 古川 修平 氏、HFSP Scientific Officer 足立 剛也 氏 “About the Human Frontier Science Program” Mr. Shuhei Furukawa, Deputy Manager Division of International Collaboration Department of International Affairs AMED, Mr. Takeya Adachi HFSP Scientific officer HFSP
16:30 (ENG)	Human Frontier Science Program の採択事例 九州大学基幹教育院 ローレンス ヨハン 教授 Testimonial by Human Frontier Science Program Research Grant Awardee Prof. Johan Lauwereyns Faculty of Art and Sciences, Kyushu University
16:45	閉会挨拶 Closing address 九州大学 副学長 緒方 一夫 教授 Prof. Kazuo Ogata Senior Vice President Kyushu University
17:00～19:00	ネットワーキングセッション (参加費 2500 円) Networking Session (participation fee JPY 2500)



Delegation of the European Union to Japan
駐日欧州連合代表部



JSPS





第5回 北海道大学 部局横断シンポジウム

－ 新世代の融合研究を目指して －

生命科学研究に従事する若手の育成・交流を目的としたシンポジウムです
この機会に研究の輪を広げてみませんか？
参加費無料・事前登録不要ですのでふるってご参加ください

演題登録
9/27(FRI)
17:00締切

日時 11/6 WED 9:00 ~ 17:30
意見交換会 17:30 - (参加自由・軽食あり)

会場 北海道大学医学部学友会館フラテホール

主催 遺伝子病制御研究所

共催 水産科学研究所・地球環境科学研究所・理学研究所・薬学研究所・農学研究所・
先端生命科学研究所・保健科学研究所・工学研究所・医学研究所・歯学研究所・
獣医学研究所・文学研究所・情報科学研究所・北海道大学病院・低温科学研究所・
電子科学研究所・触媒科学研究所・北方生物圏フィールド科学センター・
北極域研究センター・人獣共通感染症リサーチセンター・生命科学院・総合化学院・
医理工学院・URAステーション・産学・地域協働推進機構

後援 北海道大学部局横断型シンポジウム等開催経費助成、
文部科学省共同利用・共同研究拠点事業、フォトエキサイトニクス研究拠点事業

お問合せ先 部局横断シンポジウム運営委員会 5thBOS@igm.hokudai.ac.jp

京都大学 | Kyoto University Academic Service

研究支援情報

D-18 Events and Seminars

イベント案内



国際・学際的研究の フロンティアへの挑戦

HFSPを中心とした海外グラント・フェローシップ獲得のノウハウを学ぶ

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) 機構および日本医療研究開発機構 (AMED) と連携し、自然科学研究領域で国際的・学際的なファンドプログラムへ挑戦するためのセミナーを開催します。第一部は、HFSP研究グラントを獲得し国際的に活躍する研究者から、チーム形成からプロジェクトマネジメントに至る経験をお話いただき、第二部は、海外派遣フェローシップの活用やポスドク留学など若手研究者が国際的にPIとして活躍するためのノウハウについて紹介・議論します。

日時 2019年12月9日[月] 13:30 - 17:00

場所 京都大学 基礎医学記念講堂・医学部資料館

対象 京都大学所属の研究者・学生

申込 <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/177>

プログラム

第一部 13:30 - 15:10

「HFSPを始めとする国際・学際的研究グラントへの挑戦」

- ・AMEDの国際プログラムとHFSPについて
古川修平 日本医療研究開発機構 (AMED) 国際事業部
- ・HFSPグラント採択者による申請・研究経験談
林康紀 京都大学医学研究科・教授
齊藤博英 京都大学IPS細胞研究所・教授
今古格 京都大学生命科学研究科・教授

第二部 15:30 - 17:00

「若手研究者が国際的に活躍できるPIを目指すには？」

- ・若手研究者のキャリア・国際ネットワーク構築を育むフェローシップ
学術研究支援室 URA
- ・HFSPグラント採択者による海外留学経験談
河岡慎平 京都大学ウイルス再生医学研究所・特定准教授
植畑拓也 京都大学医学研究科・助教
- ・ディスカッション及び質疑応答

主催 学術研究支援室 (KURA)

協力 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) | 日本医療研究開発機構 (AMED)

問い合わせ 学術研究支援室 HFSP説明会事務局 [担当: 鈴木、松岡、西田] | 内線: 16-5164 | ku-hfsp@kura.kyoto-u.ac.jp



京都大学学術研究支援室 2019 年度
Kyoto University Research Administration Office (KURA)

京都大学 研究支援情報 Search





HFSP

第48回日本免疫学会学術集会
Career Development Seminar

世界に挑戦する若手研究者が
HFSPを選ぶワケ

定員30名程度に
達し次第締め切り。
お弁当あり！

座長 石井 優 大阪大学
(HFSP LTF・CDA・YIG受賞者)

演者 足立剛也
国際HFSP推進機構/AMED

*HFSP fostering international/interdisciplinary
mindsets for serendipity*



留学を志すあなたへ
新たな分野に挑戦したい
あなたへ
海外グラント獲得を目指す
あなたへ

開催日
12月11日 (水)

開催時間
12:15-13:15

会場
アクトシティ浜松**52会議室**

経験者の体験談を届けます！
- フェローシップの比較！
組み合わせ次第で、6年留学も。
- 留学の準備、どうする！？
準備期間、家族への支援も重要！
- 海外研究生活を充実させる
将来に向けた海外との異分野融合

経験者等の所属・留学先・連携機関



参考資料 5-7

若手研究者による Task Force 会議

日 時：2019年12月10日（火曜日）14:30～16:30

場 所：東京慈恵会医科大学

2号館14階1403会議室

東京都港区西新橋3-25-8

出席予定者

足立、神尾、森田、坂下、正木、福島、佐藤、中島、倉島、二村、貝沼、玉利

以下の項目等について話し合う予定。

- 本 TF の体制（委員長、副委員長等）について
- 本 TF の名称について
- 連携を取る国際連携・異分野融合に関する取り組み Sipa について
- 次世代・国際連携・異分野融合推進に向けた取り組みについて
 - 各学会等の事例紹介
- 海外から日本への参加推進に向けた取り組みについて
 - 各学会等の事例紹介
- JSA / WAO joint Congress 2020 の企画について